

セジロウンカに対する各種殺虫剤の殺虫力

尾崎幸三郎・葛西辰雄

1961年7月に、高松市仏生山町の農試圃場無防除田から採集したセジロウンカ幼虫について、各種殺虫剤に対する致死薬量を残留面接触法で検定したが、カーバメイト系のNAC,CPMC,MTNC,MPMCとPHCおよび有機リン系のパラチオン、フェニトロチオンとフェンチオンの殺虫力は高く、またサリチオンのそれも高かった。一方DDTと有機リン系のCVP,ジメトエートとEPNの殺虫力は低かった。

セジロウンカ成虫の β -naphthyl acetateを加水分解するエステラーゼの泳動帯を薄層電気泳動法で分離したが、セジロウンカ成虫には5本の活性泳動帯がみられた。しかし仏生山個体群のすべての個体はこれらのエステラーゼが不活性か低活性であった。

なお各種殺虫剤のセジロウンカとヒメトビウンカの間における選択毒性についても検討を加えた。